

テック インフラ Tech Infraだより vol.5

ライフスタイルを激変する自動運転 技術向上でデータ通信量が激増

2018年11月2日

自動運転の実現が目前に迫ってきましたが、その実現のカギとなる膨大な量のデータ処理や通信には、充実した通信インフラの活用が不可欠です。

急速に進歩する 自動運転技術

将来の話と思われていた車の自動運転が、急速な技術の進歩とともに実用段階に入ってきました。自動運転車は、交通事故の大幅な削減、渋滞の緩和などの効果が期待されており、各国政府による政策整備や企業の実証実験など、実用化への取り組みが本格化しています。

日本の政府が策定したロードマップでは、2020年を目標にレベル3に相当する「準自動パイロット」、2025年を目標にレベル4に相当する「高速道路での完全自動運転」の実現を目指しています（図表「自動運転のレベル分け」をご参照）。

必要とされる 膨大なデータと 通信インフラ

米インテル社によれば、自動運転車が生み出すデータは、1日1台あたり4テラバイト（約4兆4千億バイト）という膨大な量となる見込みであり、平均的なネットユーザーの2万5,000倍になるとのことです。自動運転車にとってデータ処理の遅延は命取りになりかねず、これまで自動車産業と縁の薄かった通信タワーやデータセンター等の通信インフラに注目が集まっています。

現在

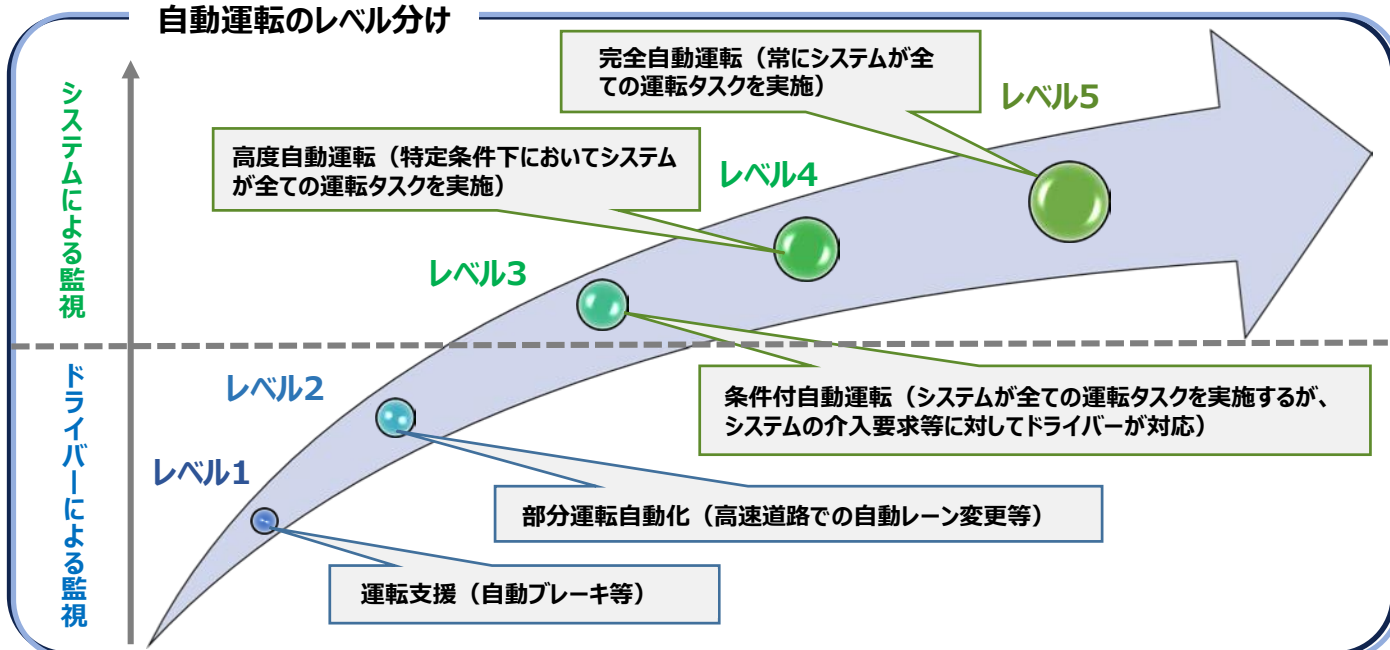


近未来



図はイメージです

自動運転のレベル分け



ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会